

第19回介護福祉士, 第19回社会福祉士, 第9回精神保健福祉士国家試験に向けて

(2006.5.12 作成)

(1) 第18回, 第8回国家試験の結果(まとめ)

		介護福祉士	社会福祉士	精神保健福祉士
		第18回	第18回	第8回
筆記試験の結果(まとめ)	試験 合格最低 得点・率	73/120 = 60. 8%	80/150 = 53. 3%	(一般) 82/150 = 51. 2% (短期) 41/80 = 51. 25%
	合格率	60, 910人/130, 034人 = 46. 8%	12, 222人/43, 701人 = 28. 0%	4, 470人/7, 289人 = 61. 3%
筆記試験(発表)		<p>次の2つの条件を満たした者を筆記試験の合格者とする。</p> <p>(1) 総得点120点に対し、得点73点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。)</p> <p>(2) (1)を満たした者のうち、以下の「12科目群」すべてにおいて得点があった者。</p> <p>①社会福祉概論 ②老人福祉論 ③障害者福祉論、リハビリテーション論 ④社会福祉援助技術(演習を含む。)</p> <p>⑤老人・障害者の心理 ⑥家政学概論、レクリエーション活動援助法 ⑦医学一般、精神保健</p> <p>⑧介護概論</p> <p>⑨介護技術(一問一答問題)</p> <p>⑩介護技術(事例問題) ⑪形態別介護技術(一問一答問題)</p> <p>⑫形態別介護技術(事例問題)</p>	<p>次の2つの条件を満たした者を合格者とする。</p> <p>1-1. 総得点150点に対し、得点80点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。)</p> <p>1-2. 試験科目の一部免除を受けた受験者(社会福祉士及び介護福祉士法施行規則第5条の2) 総得点70点に対し、得点39点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。)</p> <p>2. 1-1又は1-2を満たした者のうち、1-1に該当する者については、試験科目(ただし、社会福祉援助技術については、「一問一答問題」と「事例問題」をそれぞれ別個の試験科目とみなす。)14科目(1-2に該当する者については、6科目。)の各科目すべてにおいて得点があった者。</p>	<p>次の2つの条件を満たした者を合格者とする。</p> <p>1-1. 総得点160点に対し、得点82点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。)</p> <p>1-2. 試験科目の一部免除を受けた受験者(精神保健福祉士法施行規則第6条) 総得点80点に対し、得点41点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。配点は1問1点である。)</p> <p>2. 1-1又は1-2を満たした者のうち、1-1に該当する者については、試験科目(ただし、精神保健福祉援助技術については、「一問一答問題」と「事例問題」をそれぞれ別個の試験科目とみなす。)14科目(1-2に該当する者については、6科目。)の各科目すべてにおいて得点があった者。</p>
実技試験(発表)		<p>筆記試験の合格者のうち、次の条件を満たした者を実技試験の合格者とする。</p> <p>総得点100点に対し、得点46. 67点以上の者(総得点の60%程度を基準とし、問題の難易度で補正した。)</p>	X	X

(総評)

若干の疑義はあるものの、3試験ともに「国家試験」として妥当な試験・設問であったと考えている。

各試験の傾向・対策に何ら変わりはないと考えられる。科目ごとの近年の動向によって難易度の変動はあつてしかるべきで、従来の延長線にある。次回国家試験の対策としては、過去問を重視し、最近の動向を十分把握して受験勉強を進めればよいと考える。市販の解説書による傾向・対策では、おおむね科目ごとの評価の積算(多数の執筆者による「科目」の評価の寄せ集め)と考えられ、「やまだ塾」の全科目を通しての「国家試験」としての評価(執筆者は一人)とは視点が異なると思われる。例えば、「社会福祉原論」(社会福祉士, 精神保健福祉士共通科目)の傾向と対策においては、きわめて難しくなると取り上げられることが予想されるが、今までの「概論」的であったものが、ようやく「原論」的になっただけで、日本における社会福祉・社会保障の変革の流れからの当然の傾向であると考えている。国家試験対策は、全科目をトータルした「国家試験」としてのとらえ方が必要である。

(2) 第19回, 第9回国家試験に向けての受験勉強の進め方 (結論・今後の予定)

- ① 過去問と最近の動向の理解を受験対策の基本とする ⇒ 本試験の50%の達成をめざす
・7月から「模擬問題(一問一答式)」を公開(連載)する
- ② 歴史を理解する ⇒ 年表を作成し, 大きな流れと概要を理解する
・6月から随時に情報提供する
- ③ 対人援助の基本・原則を確実に理解する ⇒ 事例問題への対応となる
・随時に情報提供する
- ④ 自分なりの努力・工夫は必要である ⇒ 「志」を持ったときを思い起こしてください
・じっくりと考える時間, 本を読む時間を持ちましょう

(参考)

3 福祉士国家試験の科目と問題数の一覧

	介護福祉士		社会福祉士		精神保健福祉士	
1	社会福祉概論	8問	社会福祉原論		10問	
2	老人福祉論	10問	社会保障論		10問	
3	障害者福祉論	4問	公的扶助論		10問	
4	リハビリテーション論	4問	地域福祉論		10問	
5	社会福祉援助技術(演習を含む。)	8問	心理学		10問	
6	レクリエーション活動援助法	6問	社会学		10問	
7	老人・障害者の心理	8問	法学		10問	
8	家政学概論	8問	医学一般		10問	
9	医学一般	12問	老人福祉論	10問(事例問題3問含む)	精神医学	10問
10	精神保健	8問	障害者福祉論	10問(事例問題3問含む)	精神保健学	10問
11	介護概論	8問	児童福祉論	10問(事例問題3問含む)	精神科リハビリテーション学	10問(事例問題3問含む)
12	介護技術	20問(事例問題含む)	社会福祉援助技術	30問(事例問題18問含む)	精神保健福祉論	20問(事例問題6問含む)
13	形態別介護技術	20問(事例問題含む)	介護概論	10問	精神保健福祉援助技術	30問(事例問題12問含む)
	全 120 問		全 150 問		全 160 問(短期=全 80 問)	